東京新聞 おやこSDGs教室

# 未来のために一人ひとりにできること

**SDGsとは、持続可能な世界実現に向けた17の目標のこと。教育の現場においてもSDGsに関する学習が導入され、関心が高まっています。こうしたニーズに応えるため、8月18日、東京新聞（東京都千代田区）を会場に、小学校3年生から6年生の子どもとその保護者を対象とした「おやこSDGs教室」を開催。SDGsの取り組みを進める朝日信用金庫と（独）環境再生保全機構を講師に迎えてSDGsを学び、オリジナルの新聞づくりを通して理解を深めたイベントの模様をお届けします。**

※会場とオンラインの同時開催で、約40組が参加しました。

主催／東京新聞　協賛／朝日信用金庫・独立行政法人 環境再生保全機構

午前の部 講義

## 「朝日信金×SDGs」の取り組み

講師
朝日信用金庫 SDGs推進室
松原 美千代さん

## 届けたワクチン20万人分！エコキャップ推進活動

1923（大正12）年創業の朝日信用金庫は、来年で100周年を迎えます。本店は台東区にあり、都内を中心に地元企業を応援するための取り組みを進めています。また、SDGs目標達成に向けて「地域社会への貢献」「環境課題への取り組み」「豊かな暮らしの実現」という3つの課題にも取り組んでいます。「環境課題への取り組み」では、お客様に差し上げる「粗品」の一つであるスプーンなどのセットは、何度でも洗って使える「紙素材」のものを選定。お客様に喜んでいただくだけでなく、地球環境にも優しい品物を選ぶようにしています。

今年で15年目を迎える環境活動もあります。ペットボトルキャップを回収する「エコキャップ推進活動」です。当時、地域のお客様から「プラスチックゴミを減らしたい」というお声を聞くようになり、その声にぜひともお応えしたいと始めました。これまでに回収した数は、約1億7000万個、削減した$CO_2$量（二酸化炭素）は1,272トンにも及びます。

回収されたキャップは、どこへ運ばれると思いますか？専門の工場で溶かされて、ボールペンなど別の製品に生まれ変わります。キャップの中には、リサイクルに向かない異物が混じる場合もあるので、一部の工場では地域の福祉作業所に選別作業をお願いしています。その作業代は、福祉作業所の障がいがある方の収入にもなります。さらに、キャップの回収代金の一部は「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付され、貧困に苦しむ国の子どもたちのワクチン購入に使われます。これまで回収したキャップで、20万人以上ものワクチンを届けることができました。

朝日信用金庫では、他にも信用金庫内での再生可能エネルギーの使用や、古本募金を通じた子ども食堂などへの寄付、地域の子どもたちを対象に金融教育も行っています。SDGs目標達成のために大切なことは、小さな取り組みを積み重ねていくこと。皆さんの若い力も期待しています！

子どもたちは学校でSDGsを学んでいますが、私自身も知りたかったので、いい機会になりました。信用金庫も身近な存在になりました。

今日初めて知ったこともあって面白かった。キャップはリサイクルできるようにしたいです。

午後の部 講義

## 「プラスチック」について考えよう

講師
独立行政法人 環境再生保全機構
伊藤清里菜さん（左）
谷口あさひさん（右）

## みんなの行動ひとつでプラスチック問題は解決できる！

環境再生保全機構は、環境省所管の独立行政法人です。公害や石綿（アスベスト）による健康被害を受けた方々への補償・予防と救済、国内外で環境保全活動を行う団体へのサポートや環境に関する様々な分野の研究機関を支援しています。本日、皆さんに伝えたいことは、「みんなの行動ひとつでプラスチック問題は解決できる！」です。

世界におけるプラスチック生産量は増加を続けています。一方、ゴミの回収やリサイクルの状況はどうなっているのか。石油由来のプラスチックは、自然分解されることなく、大量のゴミとなって海に流れ着いています。世界中の海に捨てられているプラスチック総量は年間約800万トンといわれ、重さにして「ジャンボジェット機約5万機分」に相当。このままゴミが増え続けると、2050年には、海中は魚よりもゴミの量が多くなるといわれています。また、直径5ミリ以下の「マイクロプラスチック」は、太陽光などによって劣化するとメタンガスなどを放出し、地球温暖化を加速させます。日本は、一人当たりの容器包装プラスチックゴミの排出量が世界第2位です。問題解決に向けて、何ができるかを真剣に考えていかねばなりません。

SDGs目標12番「つくる責任　つかう責任」が目指すものは、「持続可能な生産と消費の確保」。その達成のため、世界中で「3R（スリーアール）活動」が進められています。3Rとは「Reduce（リデュース）：つくる量を減らす」「Reuse（リユース）：再利用する」「Recycle（リサイクル）：再資源化する」の3つのRの総称です。さらに、近年では「Refuse（リフューズ）：いらないものは断る」「Repair（リペア）：修理する」が加わり、5R活動にも注目が集まっています。

最後に、私たちから皆さんへご提案したいのは、「プラスチックを使わない生活をする」「プラスチックは“使い捨て”という考え方をやめる」「各自治体のゴミ分別ルールを守る」です。また、プラスチックは、素材を加工してより価値のある製品に仕上げる「アップサイクル」が可能です。自由な発想を大切に、みんなで取り組んでいきましょう！

ゴミの分別をしていきたいです。それとこれは私のアイデアですが、裏が白い紙を捨ててしまうのはもったいないので、これからは裏も使おうと思いました。

講義では、実際に、環境問題に取り組んでいる方々のお話を聞くことができて、心に響くものがありました。喫緊の課題であることがしっかりと伝わりました。

## SDGs新聞づくりにチャレンジ！

### 今日から行動を変える！

講義終了後、新聞づくりがスタート！まずは、東京新聞読者部NIE担当の東松充憲記者が新聞制作のポイントを教えてくれました。「新聞は、みんなに伝えたい“大切なこと”を知らせるもの。だから、読む人の気持ちになって、読んでもらえるような工夫をしながらつくりましょう！」。

子どもたちに手渡された「新聞キット」は、新聞名や見出し、記事、写真を入れる箇所が空欄になっています。そこに、講義の要旨を自分の言葉でまとめることで、SDGsをより深く理解し、“自分ごと”にすることにもつながります。しかし、聞いた話を文章化することは難しく、考え込む子も。それでも、親御さんや講師との対話の中から、見出しなどのヒントを見つけ少しずつ書いていきました。

子どもたちに、記事にしたい話はどれ？と聞いてみると、「回収したキャップの売上で、20万人の子どもにワクチンが届けられる」「海のプラスチックゴミの量は、ジャンボジェット機5万機分の重さ」などの答えが。具体的な数や量で示されることで想像しやすくなり、地球環境の現状や小さな取り組みの積み重ねがよりよい未来につながることを理解できたようです。早速、「今日から行動を変えたい」という子は、「プラスチック製のヨーグルトの容器は、リサイクルできるように分別して捨てます！」と元気に宣言。夏休みの自由研究にもなったこの日の教室、まずは自分の行動を見直すことが、SDGsゴールに向けた一歩になることを親子で体感できた時間となりました。

完成！SDGs新聞

新聞に得意の絵を描く子も。オリジナリティあふれる新聞が完成した

企画・制作／東京新聞広告局


朝日信金 × SDGs

地球のためにはじめよう

みんなでSDGs

pannapitta © '22 SANRIO APPR No. L621404

街の鼓動に敏感です
朝日信用金庫
本部／東京都千代田区東神田2-1-2 TEL.03（3862）0321
https://www.asahi-shinkin.co.jp/

#ERCA環境×アートコレクション 2022
「アートのチカラで地球を守ろう！」
新たな発想で環境課題にチャレンジしてみよう！
今年のテーマは「プラスチック」！
2030年までアート8年です。
めざせ環境アーチスト

子どものための環境学習サイト
過去、現在、未来にわたって「環境」を取り巻く課題や今注目のキーワードから学ぶことができます。
子どもたちと地球の将来について考えるきっかけに、ご家庭や学校でぜひご活用ください。

独立行政法人 環境再生保全機構 ERCA Environmental Restoration and Conservation Agency
https://www.erca.go.jp/

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS